

新宮涼閣 しんみやうりやうかく 蘆方醫、漢詩人。文政十一年五月十四日丹後國生れ、
明治十八年十二月四日歿（二八八一五）。諱義健、幼名柔吉。號白雲。
田邊藩士古川（河）氏の第五子。八歳で藩賢たけい入り、のち京師みやこに全つて
新宮涼庭しんみやうりやうていに學ぶ。傍ら宮本元甫みやもと げんぽうに蘭學をたぐす。弘化二年涼庭の養子
となり第一分家をぶんけ立てた。在京の儘津藩の醫官に任じ、私塾を開いて
子弟を教授、また二國大學（幽賦）等と國争こくそうに奔走するなどのことも
あつた。明治六年同業としよめい脊議して刑屍解剖、維新後京都に於ける解體
の濫觴らんさうといふ。十一に在京都府の諮問に應じ、安政年間京に流行せる虎
列刺患レテ者負數、治死數、治療法等を復申、重ねて數種の著書を上梓し
た。維新前、にしあまね曲周まがまわに就きフランス學を修めたるほど學漢歐くわいに互つた。晩
年漢詩文の意いき用もちむ、齋藤拙堂、上井整かみか才、石津灌園、森寛齋、林雙
橋等と親交。

『白雲遺稿』（明治二十七年十二月二十日京都・齋藤汕也編刊）は漢詩集。

